

環境活動レポート

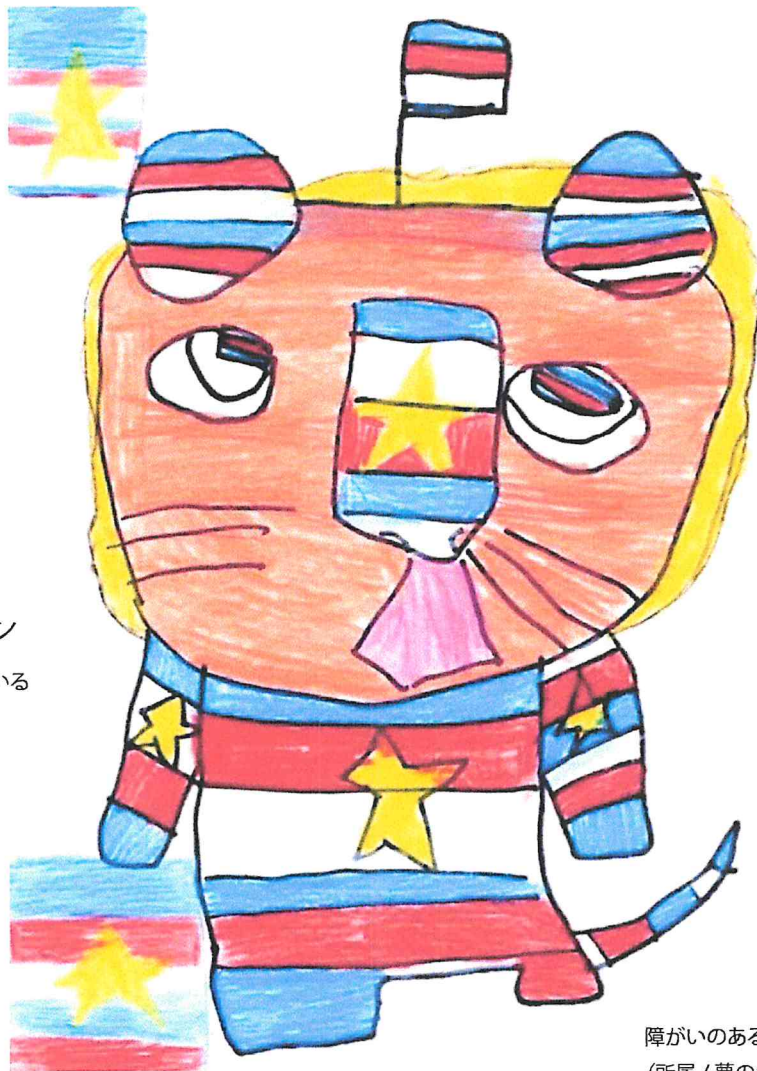
2017

絵画の紹介

<タイトル>

アメリカライオン

アメリカの旗を持っている
ライオンをイメージ



障がいのある方が描いた絵です。
(所属 / 夢のかけら舎)

平成30年10月発行

第14版：平成29年3月～平成30年2月実績



(株)グリーンロジスティクス
e-style camp



基本理念

株式会社 グリーンロジスティクスは、廃棄物の中間処理・収集運搬業務を通じて、人と環境が調和し、共存できる循環型社会への構築に向けての地域環境保全に努めます。

行動指針

1. 環境負荷の低減を目指し、重要項目として下記の項目に重点を置き、計画的・継続的・効果的な CO2 削減活動を行います。
 - ① 収集運搬車両及び重機等による燃料使用量の削減。
 - ② 産業廃棄物リサイクル率の向上。
 - ③ 水光熱使用量の削減。
 - ④ バイオディーゼル燃料(BDF)の普及。
 - ⑤ 再生可能エネルギーの生産・供給。
 - ⑥ グリーン商品の積極的購入及び資源の有効活用。
2. 全社員が、地域社会における役割と責任を認識し、地域融和活動に努めます。
 - ① 第一に私達は、地域社会の一員であることを自覚します。そして、地域に対して「役立ちたい」というもっとも高い価値観を共有します。
 - ② 地域の企業・環境団体や行政との連携を深く図り、地域が参加できる環境保全活動を企画・実践します。そして、知識・情報を共有し環境ネットワークづくりに努め、地域社会にも広く発信します。
3. 環境関連法規・条例・要綱及び全ての要求事項を遵守します。
4. あらゆる人に環境レポートを公開し、地域環境コミュニケーションの形成のための協力と理解を求めます。

制定日 平成 17 年 5 月 1 日

最終改訂日 平成 27 年 5 月 1 日

株式会社 グリーンロジスティクス
代表取締役 岩崎 浩

事業概要 1



◆事業名称及び代表者名

株式会社 グリーンロジスティクス 代表取締役 岩崎 浩

◆所在地

◇管理事務所 熊本県菊池郡大津町杉水 2506 番地

◇圧縮梱包棟及び選別・破碎棟 熊本県菊池郡大津町杉水 2509 番地 1

◆資本金

1000 万円

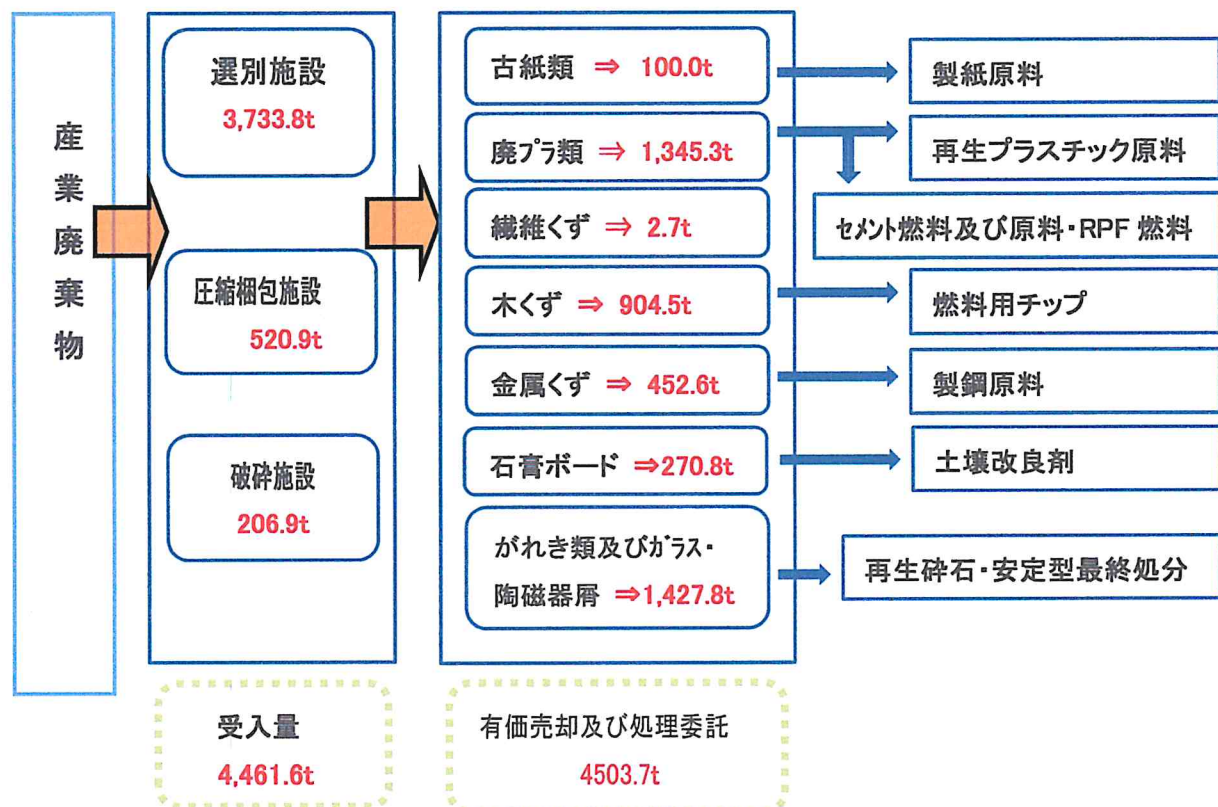
◆設立

平成 4 年 12 月 21 日

◆事業内容

- ◇一般廃棄物・産業廃棄物収集運搬業
- ◇産業廃棄物中間処理業(選別、破碎、圧縮、梱包)
- ◇有価物(古紙・再生樹脂・金属屑)の回収・加工・販売

中間処理施設の処理フローとマテリアルバランス





◆許可内容

NO	許可の種類	自治体	許可番号	許可年月日	有効年月日
1	一般廃棄物収集運搬業	大津町	第 10 号	H28.4.1	H30.3.31
2		菊池市	菊市環許第 8 号	H29.4.1	H31.3.31
3		合志市	合志市令第 70 号	H29.4.1	H31.3.31
4		菊陽町	指令環第 288 号	H28.4.1	H30.3.31
5		益城町	第 14-8 号	H28.4.1	H30.3.31
6		西原村	4354 号	H29.4.1	H31.3.31
7	一般廃棄物処分業	大津町	第 62 号	H30.1.4	H31.3.31
8	産業廃棄物収集運搬業	熊本県	第 04300008464 号	H27.9.15	H34.9.8
9	産業廃棄物処分業		第 04320008464 号	H28.11.25	H35.9.29

※2013.5.16 に熊本県より「優良産廃処理業者」に認定を受けました。

◆産業廃棄物処分業(熊本県)

◇事業の全体計画

排出事業所から排出された産業廃棄物を搬入し、計量後、処理前保管場所にて保管する。その後、機械選別ライン・破砕機・圧縮梱包機にて、それぞれ処理を行う。

その後は、処理後保管場所に保管し、有償売却、又は処理委託する。

◇処分する産業廃棄物の種類等

(選別) 廃プラスチック類 81t/月・木くず 65t/月・金属くず 3t/月・がれき類 10t/月・紙くず 3t/月・繊維くず 0.5t/月・ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず 10t/月・ゴムくず 0.1t/月

(破砕・圧縮梱包) 廃プラスチック類 50t/月・金属くず 3t/月・紙くず 5t/月・繊維くず 0.5t/月

◆産業廃棄物収集運搬業(熊本県)

◇事業の全体計画

排出事業者から収集運搬の委託を受けた産業廃棄物の自社中間処理施設をはじめ、他の処理施設に運搬する。

◇収集運搬する産業廃棄物の種類等

① 廃プラスチック類・木くず・金属くず・紙くず・繊維くず・ゴムくず⇒225t/月

② ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず⇒20t/月

③ がれき類⇒40t/月

④ 動植物性残渣 45t/月

⑤ 燃え殻・ばいじん 1t/月



事業概要3

◆施設等の状況

◇運搬車両の種類と台数

- ・8tクラム車 1 台・4tフックロール車 2 台・4tユニック車 1 台・3tユニック車 1 台
- ・2tダンプ車 1 台・4tパッカー車 8 台・2tパッカー車 1 台・軽トラック 2 台
- 合計 17 台

◆施設の種類と処理する廃棄物の種類、処理能力他

◇選別施設

- ・処理する産業廃棄物の種類
廃プラスチック類・木屑・金属屑・がれき類・紙屑・繊維屑・ガラス屑・コンクリート屑及び陶磁器屑・ゴム屑
- ・処理能力 15t／日(8h)
- ・処理方式 手選別及び機械選別ライン

◇破碎施設

- ・処理する産業廃棄物の種類
廃プラスチック類
- ・処理能力 4.7t／日(8h)
- ・処理方式 破碎機

◇圧縮・梱包①施設

- ・処理する産業廃棄物の種類
廃プラスチック類・金属屑・紙屑・繊維屑
- ・処理能力 廃プラスチック類 41.5t／日・金属屑 88.5t／日・紙屑 63.4t／日・繊維屑 44.2t／日(8h)
- ・処理方式 圧縮梱包機

◇圧縮・梱包②施設

- ・処理する産業廃棄物の種類
廃プラスチック類・金属屑・紙屑
- ・処理能力 廃プラスチック類 3.4t／日・金属屑 10.8t／日・紙屑 2.9t／日(8h)
- ・処理方式 圧縮梱包機

◆会計年度及び環境年度

毎年3月1日から翌年2月末日

◆情報公開

- ◇(株)グリーンロジスティクス ホームページ ⇒ [http:// greenlogistics.co.jp/](http://greenlogistics.co.jp/)
- ◇産廃情報ネット情報開示システム ⇒ <http://www2.sanpainet.or.jp/zyohou/>



事業概要 4

◆事業の規模

活動規模		単位	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
売上高		百万円	300	319	338	360	381	430	466
廃棄物 取扱量 (有価物含)	収集運搬	t	10,527	12,162	12,947	13,215	13,137	12,748	12,240
	中間処理	t	5,311	6,688	6,684	6,786	7,489	7,635	7,695
従業員数		人/年	22	26	27	30	33	35	36
敷地面積		m ²	4,999	4,999	4,999	4,999	4,999	4,999	6,342
車両台数		台	18	17	18	17	17	17	17

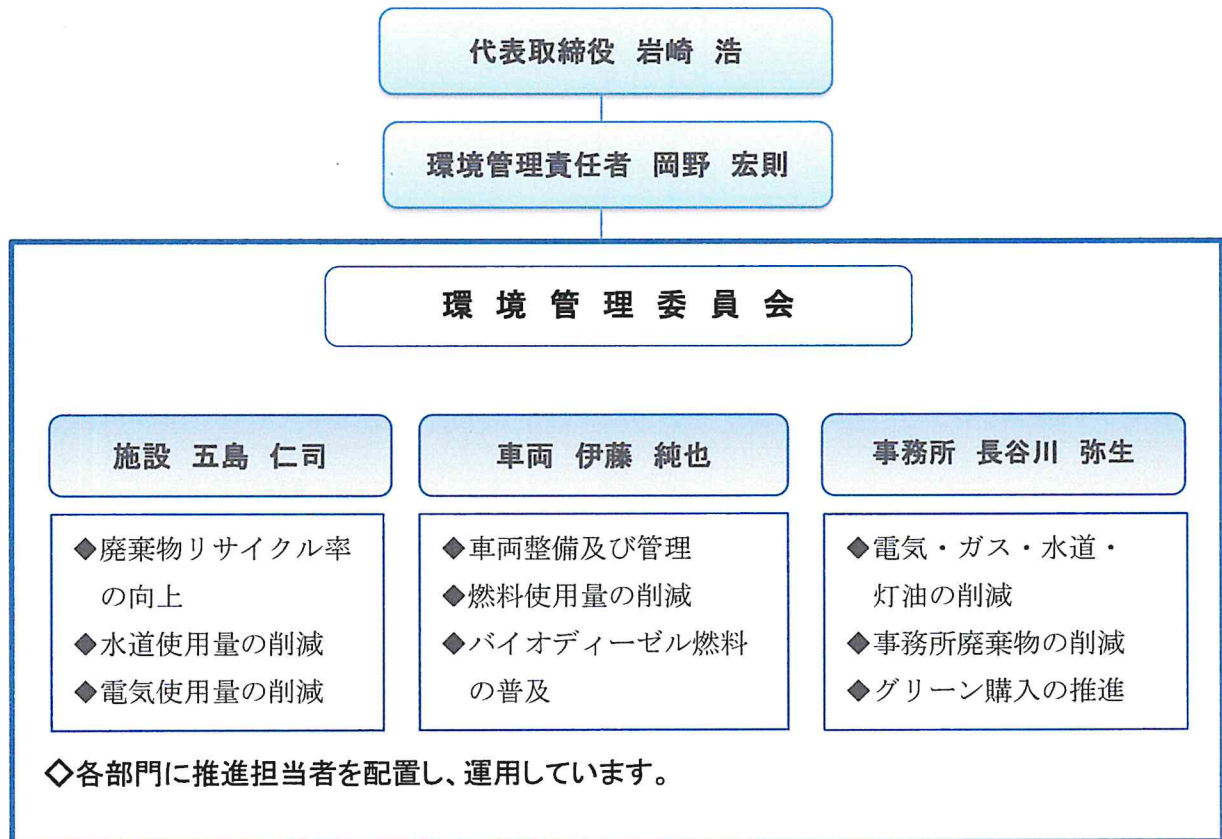
* 平成 29 年度 既存事業地の拡張

* 災害廃棄物の収集運搬量は含まない



環境マネジメントシステム

エコアクション 21 組織図



☆環境管理責任者の連絡先 (096)293-0743

環境数値目標と実績及び評価



◆環境目標と実績及び評価

環境目標	単位	平成29年度 目標	平成29年度 実績	評価	平成30年度 目標	平成31年度 目標
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /百万円	1,000	1,051	×	890	880
購入電力	kwh	54,000	51,129	○	46,000	50,000
化石燃料	1) 灯油	170,000	177,076	×	120,000	120,000
	2) ガソリン					
	3) 軽油					
	4) 軽油（災害車両）					
	5) 液化石油ガス（LPG）	90	114		90	88
水資源使用量	m ³	1,080	1,334	×	1,080	1,080
太陽光発電量	kwh	91,000	88,502	×	91,000	91,000
BDF使用量	L	2,500	1,451	×	0	0
事業所からの廃棄物排出量	kg/人	8.5	8.7	×	8.5	8.5
グリーン購入の推進（事務用品）	%	76.3	67.8	×	78.0	78.0
リサイクル率の向上	%	75.0	75.4	○	76.0	78.0

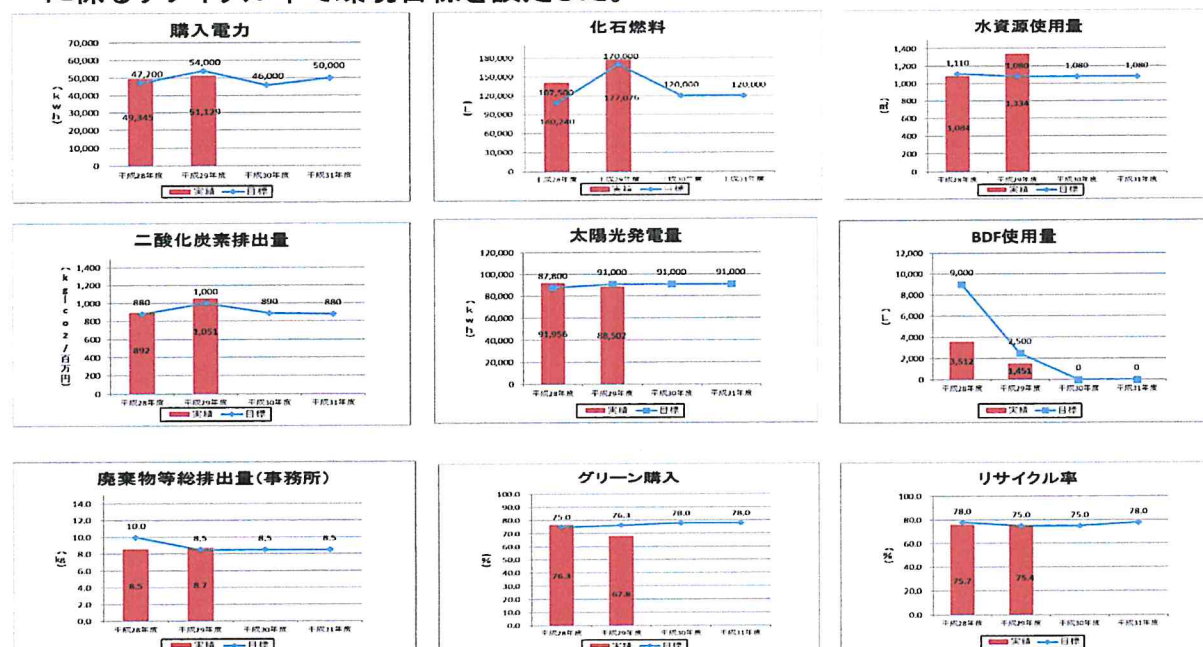
○二酸化炭素排出量については、収集運搬車両及び重機の稼働による軽油の割合が高く業務の量により変動するため、売上百万円当たりの数値で環境目標を設定した。

○購入電力の排出係数については、平成 27 年度の九州電力実排出係数(0.509kg-CO₂)を使用した。

○購入電力との比較ができるよう太陽光発電量の目標を設定した。

○既存事業地拡張のため、購入電力及びリサイクル率の目標設定を見直した。

○当社の業務は廃棄物の収集運搬及び中間処理業なので、中間処理業で取り扱う廃棄物に係るリサイクル率で環境目標を設定した。





環境活動計画の取組み結果とその評価、次年度の取組み内容 1

◆環境活動計画の取組み内容とその評価及び次年度の取組み内容

○二酸化炭素排出量の削減		
取組み項目	取組み内容	評価
電気・電力使用量の削減	①未使用部屋・パソコン等のこまめな電源の入切	○
	②エアコンの温度設定を夏は28度とし、冬季は原則エアコンは使用せず、ヒーター等で代用する。	×
	【次年度の取組み】	
	休憩室のエアコンの買換えを行ったが、従業員の出入りが多い分、温度設定・スイッチのこまめな入切の徹底ができていなかった。	
	新人研修や各部署の勉強会等で全員の意識の統一に努める。	
	③Cool-Biz及びWarm=Bizの推奨	○
	④破砕機・プレス機等の効率的な使用	×
	【次年度の取組み】	
	故障が多かったことも目標達成に至らなかった原因の1つとなった。	
	定期的なメンテナンスと日々の取り扱いをより丁寧に行うことで、無駄な動力を使わないよう徹底する。	
灯油・ガス使用量の削減	⑤太陽光発電システムによる再生エネルギーの生産性を高めていく。	○
	【電力使用量との比較】	
	今年度電力使用量 51,129 k w h に対して、太陽光発電 88,502 k w h	
軽油・ガソリン使用量の削減	①給湯室のガスコンロは、最小限度の使用に努める。	○
	②ヒーターのこまめなフィルター清掃	○
軽油・ガソリン使用量の削減	①エコドライブ講習会の実施	○
	②タイヤ点検講習会の実施	○
	③重機運転・メンテナンス研修会の実施	○
	④計量器による積載量のチェックを行うことにより、過積載をなくし燃料削減の向上に努める。	○
	⑤処理委託先及び有価物の売却先への輸送を4 t 車から大型車両に変更することで、燃料使用量を削減する。	○
	⑥営業車両に電気自動車を導入する。	○
* 昨年に引続き、災害廃棄物運搬車両（大型車含む）が燃料使用量増加の大きな原因となった。 次年度は災害運搬も終了予定のため、目標設定を震災前の数値まで下げ燃料使用量削減に取り組む。 （軽油使用量 116,595Lの内、災害車両の占める割合は、約48% 55,811L） * バイオディーゼル燃料については、計画通り平成30年度には精製を終了する。		

* 評価『○』の項目に関しては、次年度も引き続き取り組みを継続する。



環境活動計画の取組み結果とその評価、次年度の取組み内容 2



◆環境活動計画の取組み内容とその評価及び次年度の取組み内容

○水使用量の削減

取組み項目	取組み内容	評価
節水努力	①洗車時は高圧洗浄機を使用する。	○
	②ホースにストッパーを取付ける。	○
	③定期的な漏水点検	×
	【次年度の取組み】	
	今年度は、冬場の水道管の破裂による漏水が起きたため、特に冬場の水道管ヒーターのメンテナンスを徹底する。	
	④水の出しっぱなしをしない。	○

* 災害車両で使用している大型車両の洗車も使用量が多くなった原因の1つとなった。

○事業所からの廃棄物排出量の削減

取組み項目	取組み内容	評価
3Rの推進	①可燃・不燃・ビンカン・ペットの分別の徹底	×
	【次年度の取組み】	
	人員の入れ替わり等で個々の意識の低下が感じられる。 新入社員研修等において3Rの意識づけを徹底する。	
	②プラスチック類の分別	○
	③紙類の分別（上質紙・雑紙・新聞・シュレッダー）	○
	④社内コピーの裏紙活用	○
	⑤ファクシミリ受信時、パソコン画面で確認し、必要なものだけ印刷する。	○

○グリーン購入の推進

取組み項目	取組み内容	評価
グリーン購入の推進	①文具品は詰め替ええきるものを使用する。	○
	②OA用紙等の再生商品の利用	○
	③セパブル封筒を採用	○
	④定期的な発注により在庫管理を行い、無駄のない購入をする。	×
	【次年度の取組み】	
	夏場に持ち込みのお客様に差し上げるお茶を大量に購入したこともグリーン購入率を下げることとなったため、次年度は別の方法にする。	
循環資源の使用	①フレコンバックの再利用	○

○リサイクル率の向上

取組み項目	取組み内容	評価
効果的な再資源化	①大型の破砕機の導入	○
	②選別施設移設	○
	③圧縮・破砕・選別により、付加価値を高めた再資源化に努める。	○
	④排出事業者に対し、再資源化に必要な廃棄物の保管方法等の提案を行う。	○
	⑤社内において廃棄物の分別及びリサイクル研修の実施	○

* 9月に選別施設を移設し、大型の破砕機を導入することによって作業効率も上がった。

* 評価『○』の項目に関しては、次年度も引き続き取り組みを継続する。

教育・研修実施計画



◆適正処理及び環境に係わる教育・研修実施計画表（H29年3月～H30年2月）

分類	講習会・研修会・勉強会	対象グループ	具体的内容	計画時期	実施日
1 環境教育関係	車両運行前点検等研修会	一般廃棄物収集運搬グループ 産業廃棄物収集運搬グループ	1.点検の重要ポイント	随時	随時
			2.故障時の対処方法	(新入社員研修時)	(新入社員研修時)
	エコドライブ研修会		外部より講師を招いての勉強会	10月	11月4日
	タイヤ点検講習会		安全且つ、環境に配慮したタイヤ選び、タイヤ点検法を学ぶ	6月	6月17日
	重機運転・メンテナンス研修会		環境及び安全運転上の注意事項と安全衛生法について学ぶ	9月	1月20日
	安全運転講習会		外部より講師を招いての勉強会招いての危険運転防止について学ぶ	7月	2月3日
	リスクアセスメント会議		あらゆるリスクを想定し、意見交換をする	毎月	
2 環境上の緊急事態の訓練等関係	消防訓練	全グループ	緊急事態を想定し、実際に沿った訓練を行う。	10月	2月24日
	廃油・排水・汚水流出を想定した訓練	全グループ			
3 外部からの苦情等関係	社内勉強会	全グループ	苦情等が発生した場合、随時 各グループにてその原因と是正を話し合う	随時	5月1日他
	グループ長会議	各グループ長	各グループからの吸い上げを基に、協議・報告	随時	
4 環境関連法規関係	廃棄物適正処理講習会	全グループ	「廃棄物の処理と方法」「指導要綱」をテキストに用い、勉強会を行う		
			1.処分と収集運搬の許可基準		
			2.排出事業者責任について		6月30日
			3.契約書について		
			4.県や環境省からの通達事項の確認		
			5.リサイクル率向上について		
5 問題の是正処置及び予防処置関係	社内勉強会	全グループ	問題が発生した場合、随時 各グループにてその原因と是正を話し合う	随時	4月15日
			定期的なミーティングにより、気づきを挙げ、解決していく		
	グループ長会議	各グループ長	各グループからの吸い上げを基に、協議・審議・報告を行う	3月・9月	7月21・25日





地域環境コミュニケーション 1



◆ バイオディーゼル燃料の普及

- ◇ バイオディーゼル燃料を使用した菜の花パトロール車で近隣小学校の子ども達を守る地域防犯パトロールを毎日朝夕 2 回継続している。(2008 年からの継続活動)
- ◇ 地域の各行事等にて廃油の回収ボックスを設置し、集めて協力体制がさらに拡大した。



◆ 近隣小学校と地域に地域通過の寄贈と環境出前講座を行いました。

大津町立護川小学校に対して、セーフティボランティア及びコミュニティスクールの推進活動に継続参加しています。また、その活動で得た地域通貨「水水」を近隣の護川小学校と杉水地区の補修費用や備品購入費用として寄付させていただきました。

また、同校において 11 月 16 日(木)に弊社の所属団体の熊本県産業資源循環協会主催の環境出前講座が行われ、弊社より講師を務めました。





環境関連法規等の遵守状況



◆環境関連法規

該当する廃掃法、水質汚濁防止法、騒音規制法、振動規制法、悪臭防止法、土壤汚染対策法、消防法、フロン排出抑制法、水銀汚染防止法に違反及び訴訟はなかった。

◆条 例

違反及び訴訟はなかった。

◆要 綱

違反及び訴訟はなかった。

◆要求事項(クレーム)

重大なクレーム等はなかった。

* 主な改正ポイントは、次の通りです。

法令名		改訂・改正等	ポイント
廃棄物処理法	H29.6月	①廃棄物の不適正処理への対応の強化	①-1 マニフェスト関連の改正
		②有害使用済機器の適正保管等の義務付け	・電子マニフェストの使用
		③親子会社間における自ら処理の拡大	・虚偽記載の抑止
水銀汚染防止法	H29.10月	水銀等の環境への排出を抑制し、人の健康の保護及び生活環境の保全に資することを目的とする	『水銀使用製品産業廃棄物』『水銀含有ばいじん』『廃水銀等』の適切な収集運搬及び処理
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	H29.10月	水銀汚染防止法の施行に伴う改正	処理基準の追加



代表者による全体評価と見直し

◆環境方針

バイオディーゼル燃料を使用できる運搬車両も限られている為、行動指針より削除する必要があります。

◆環境マネジメントシステム

次年度も引き続き、環境管理責任者と委員会メンバーのリーダーシップで更なる全員参加型の効果的な活動を行う。

◆環境目標・活動計画及び取組結果の実績と評価

環境目標の実績と結果及び環境活動計画は、環境活動レポートの記載の通り。
平成 30 年度についても、同様の環境活動計画とします。

◆次年度の見直し

1. 破砕機を導入により、廃プラスチック類を全量破砕することとがれき類も併せて最終処分までの輸送を 4t 車から大型車両に変更し、軽油の使用量を削減します。
2. 震災の影響が少なくなる為、次年度は安定型品目を中心に選別作業を強化してリサイクル率を向上させる。
3. 電気自動車の導入と充電設備を設置する。

◆その他

1. 上記の課題が解決できるよう、環境委員会の意見も反映した施設づくりをします。
また、次年度も関係法令の徹底遵守の為、グループごとに勉強会・研修・訓練を計画し、実施します。
2. 産廃優良認定業者として、社会的責任の重大性を認識し、地球環境への配慮を常に念頭に置きながら、適正処理の徹底、コンプライアンスの確立に向け、より一層努力して参ります。

平成 30 年 10 月 1 日
(株)グリーンロジスティクス
代表取締役 岩崎 浩

これまでの取組^{♡1}

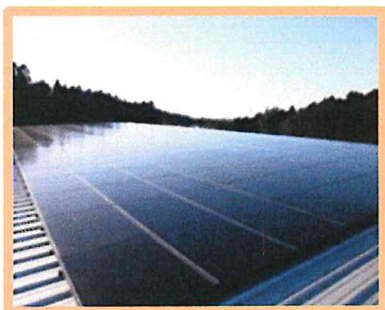


◆エコアクション21 認証・登録日

平成 18 年 3 月 28 日

◆施設

- ・平成 16 年度～ 中間処理業(選別)を開始
- ・平成 21 年度～ 中間処理施設増設に伴い圧縮機・破砕機を新設し、より効果的な選別・加工による再資源化
- ・平成 25 年度～ 太陽光パネル(84kw)を設置し、再生可能エネルギーの生産性の向上
大型破砕機の導入
熊本県産廃優良業者の認定



◆車両

- ・収集運搬車両及び重機類のバイオディーゼル燃料の使用
- ・定期的な車両点検・講習会
- ・リットレッドタイヤの使用
- ・洗車時の水使用量の削減(ストッパー取付・漏水点検・高圧洗浄機の使用等)





これまでの取組[♡]2



◆地域環境コミュニケーション

- ・平成 20 年度～ 朝の交通安全と菜の花パトロール
地域住民の不燃物等を無償で引取
エコ活動への参加
- ・平成 21 年度～ 毎年、近隣小学校との環境学習会
カライモフェスタで環境活動をパネル展示
- ・平成 22 年度 地域通貨「水水」を近隣小学校へ寄贈

